

「背中合わせの

カタルシス。」

登場人物表

松野	弦 (1 2)	(3 7)	優の兄
松野	優 (1 0)	弦の弟	
松野	恭隆 (1 2)	(3 7)	弦の従弟
松野	瞳 (3 5)	(6 0)	弦の母
松野	広大 (3 5)	(6 0)	弦の父
松野	敬大 (3 3)	(5 8)	恭隆の父
近藤	強 (1 0)	(3 5)	優の同級生
今井	大河 (1 0)	(3 5)	優の同級生
河野	颯太 (1 0)	(3 5)	優の同級生
小柳	聡子 (3 5)	(6 0)	小柳悠馬の母。
三上	壮介 (3 3)	(5 8)	英会話教師
医師			
看護師			
町内の人			
警察官 1			
警察官 2			
警察官 3			

あらすじ

25年前、松野弦（12）は弟を見捨て、そして永遠に失った。

虐めを受けていた弟、松野優はある日突然行方不明となり、後日川でその一部が見つかった。はじめに左足。その次が右足。3か月後には胴体。当時同級生達は無関係を主張し、結果この件は事故として処理された。

けれど時が経っても弦は未だ前を向いて生きることができない。病魔の疑いがあるにもかかわらず、ようやく楽になれると思うだけ。

そんな中、5年ぶりに帰省した地元で弦はあるものを見つける。25年前に自分が隠したカプセル。その中に口紅で書かれた『たすけて』の文字。それは、事件直前、泣いていた弟が塗っていた口紅の色だった。

何故そんなことをしたのか。なぜ弟は虐められているのか。事件の真相を探る為、弦は従弟の恭隆、元同級生の今井と共に当時の状況を調べることに。

だが調べる程不可解な謎が増えていく。優が『神社で知らない男とキスしていた』と言った同級生は轢き逃げで死亡。同じ塾に通っていた小学生も行方不明。更に、廃墟になった塾に忍び込み何者かに襲われる弦。叔父、敬大が隠していたVHSに記録されていたのは優と敬大の性交。そして、元塾講師・三上の元には『何かを轢いた』車。真相を探るために再度三上の敷地へ侵入した弦は、何者かに殴られ気絶してしまう。目を覚ますとそこには敬大の姿がり、弦は残酷な事実を知る。敬大は優に性的虐待を行っており、彼を殺したのは敬大。遺体を川へ流したのは三上だったのだ。優と敬大の関係を知っていた塾生は三上が口封じに殺し、優に似た容貌の生徒は誘拐され敬大によって殺されていった。そして今度は全ての罪を三上に擦り付けて弦と共に殺そうとする敬大。けれど敬大だけを愛し、彼に従い続けた三上は敬大を道ずれにして燃え盛る家屋の中に飛び込ん

だ。事件は終わったかのように見えた。しかし今度は突如恭隆が弦に襲い掛かる。初めて会った時から弦に対して異常な執着を見せていた恭隆。実は彼は以前から真相を知っていて、今回弦がソレに辿り着くように仕組んでいたのだ。いつまでも優を思い続ける弦に踏ん切りをつけてもらい、自分を見てもらうために。彼は優が敬大の餌食となるように誘導し、実際に優を殺した張本人だった。俺しかない所で、俺を選んで。結局弦に選ばれないことを悟った恭隆は弦を抱きしめて濁流に身を任せた。その後、弦は優の頭蓋骨を抱きしめた状態で川岸で発見。一方恭隆は優の両手に首を絞められた状態で息絶えていた。弦はこれからも自分を一生責め続ける。最後まで自分を助けてくれていた弟のことを覚え続け、前を向いて生き続けることを決意する。一方、隔てた世界で弦を手に入れた恭隆も満足そうに微笑んでいた。

○（回想） 25年前・松野家・廊下

サッカーボール片手に歩く松野弦（12）。

啜り泣きの声。

弦、襖の隙間から中を覗く。

両親の寝室。

鏡台の前に座る松野優（10）。

弦「……お前なにやってんの」

優、驚いて振り向く。

口紅を塗った顔、涙を流し震えている。

弦「（顔を歪め）気持ち悪いことすんなよ、何やってんの、お前」

優、顔を歪める。嗚咽が漏れる。

弦、溜息を吐く。

弦「面倒くせえなあ、母ちゃんには黙っとい
てやるから早く顔洗えよ」

弦を呼ぶ男の子の声。

弦「（声に向けて）ああ、今行く！」

優、弦に手を伸ばす。

弦、気付かず去る。

優、俯く。

○（回想）25年前・河川敷脇・通学路

小雨。

傘を差し下校する弦と松野恭隆（12）。

恭隆「今日どっちの家で遊ぶ？」

弦「お前、塾は？」

恭隆「やめた。弦がいないんじゃないし」

弦「お前、英会話教室もそれで辞めたよな」

恭隆「弦が辞めるのが悪いんじゃない」

弦「（ドヤ顔で）俺、日本から出る予定ないから」

恭隆「（笑って）なんだよそれ」

子供達の喧騒が聞こえる。

弦、恭隆、視線を向ける。

○（回想）25年前・河川敷

近藤強（10）、今井大河（10）、河

野颯太（10）、優を虐める。

優のランドセルや傘が地面に転がる。

優、抑えられ、泣く。

優「やめてよ！」

○（回想）25年前・河川敷脇・通学路

弦、舌打ちする。

恭隆「……助ける？」

弦、頷いて傘を畳む。

「オカマ！」という野次が聞こえる。

弦、手を止める。

恭隆「（首を傾げ）オカマ？」

オカマと連呼され足蹴にされる優。

弦「……」

弦、目を逸らす。傘を開く。歩き出す。

恭隆、弦を追いかける。

恭隆「……いいの？ 助けなくて」

弦「自分で何とかするだろ」

恭隆「……それもそうだね」

弦、恭隆、通り過ぎる。

○（回想） 25年前・河川敷

泣きながら弦の背を見つめる優。

同級生達、虐め続ける。

○（回想） 25年前・松野家・外観（夕）

雨風が叩きつける。

○（回想） 25年前・同・居間（夕）

寝そべりテレビゲームをする弦と恭隆。

弦、ぼんやりする。

恭隆、優の様子を横目で見る。体を起

こす。

弦「恭隆？」

恭隆「部屋の窓開けっ放しにしてたかも俺」

弦、窓の外を見る。雨。

弦「やばくねえ？」

恭隆「（焦って）ちよつと行って見てくる！

待ってて！」

弦「おお、気を付けてな」

恭隆、ランドセルを持ち出て行く。

静かな室内。

弦、クッションに顔を埋める。

弦「……」

時計の音が響く。

×

×

×

女性が呼ぶ声。

目を覚ます弦。

松野瞳（35）、弦を起こす。

弦「……母さん？」

瞳「弦？ 優は？ あんた一人なの！？」

弦、跳ね起きる。時計を見る。

午後7時。

恭隆「んん……？」

弦、隣を見る。

同じクッションで寝る恭隆。

弦「恭隆！ おい恭隆！ 優は？ お前いつ

来た？」

恭隆、目を擦りながら身を起こす。

恭隆「え、わかんない。戻ったら弦寝てたか

ら、俺も寝ちゃった……」

瞳 「帰ってきてはいるの？」

弦 「わ、わかんない」

瞳、慌てて電話をし始める。

弦、窓の外を見る。

真っ暗。雨は止んでいる。

○（回想） 25年前・同・優の部屋（夜）

弦、明かりを点ける。

散らかった部屋。ランドセルはない。

○（回想） 25年前・町内（夜）

優を探す大人達。

松野広大（35）、走りながら優を呼ぶ。

○（回想） 25年前・河川敷脇・通学路（夜）

辺りを見渡す弦と恭隆。

弦 「優！ 優！」

弦、土手を駆け下りる。

恭隆、後続く。

○（回想） 25年前・河川敷（夜）

増水し激しく流れる川。

壊れた優の傘が転がる。

背後で優の名を呼び続ける大人達。

再び雨が降る。

弦、優の名を叫ぶ。

川の音が響く。

○（回想） 25年前・小学校・4年教室

近藤、床に尻餅を付く。

弦、近藤を見下ろす。

弦「優に何した！」

近藤に駆け寄る今井、河野。

今井「ちがう、俺達じゃ……！」

近藤「し、しらない、しらないよ俺達！」

弦「嘘つくんじやねえよ！ お前らが何かし

たんだろ！」

弦、近藤に掴みかかる。

弦を止める今井、河野。

今井「（泣きながら）知らないって、本当に！」

河野「(泣きながら)優はあの後すぐ逃げていったんだ！ お巡りさんにだつてそう言つた！」

恭隆、教師達、駆けつける。弦を抑える。

弦、暴れる。

恭隆「弦、落ち着いて！ 弦！」

弦「返せよ！ 優を返せ！ 返せ！」

恭隆、弦の両肩を掴む。

恭隆「弦！ 見つかつたつて！ 優！」

弦、ハツとして恭隆を見る。

恭隆、顔を歪める。

恭隆「優……の、足が。川で」

× × ×

(フラッシュバック)

増水し激しく流れる川。

壊れた優の傘が転がる。

× × ×

弦、叫ぶ。叫ぶ。叫ぶ。

○現在・アパート・弦の部屋・寝室（朝）

弦（37）、目覚める。汗だく。荒い息。

カーテンの隙間から差し込む朝日。

ベットから体を起こす弦。

両手で顔を覆い、溜息を吐く。

床に置きっぱなしのA4封筒。

『人間ドックセンター』健康診断結果

通知書在中』と書かれている。

弦、無表情で封筒を見つめる。

○同・同・洗面所（朝）

弦、歯を磨く。顔を洗う。鏡に映る自分の姿をじっと見つめる。

弦M「何度も何度もあの日の夢を見る。25年経った今でも。昨日のここのように」

弦、鏡に手を伸ばす。自分の輪郭をなぞる。俯く。

弦M「もし優が生きていたら、どんな風になっ
っていたんだろう」

○（回想）25年前・松野家・居間

葬式。

泣き崩れる瞳と広大。

両親の背を見つめる弦。無気力。

弦M「はじめに左足が見つかった。その次が右足だった。傷口は意図的に切断されたものではなく、おそらくは川底の石や漂流物によって千切れたものだ。3か月経つ頃には胴体が見つかった、事故死と断定された」

恭隆、弦の肩に頭を預けて寄り添う。

弦、顔を上げ、祭壇を見つめる。

弦M「両腕も、頭部も、未だ見つからない」

微笑む優の遺影。

弦M「あの時、助けていたら。たったそれだけのことができていたら」

○現在・病院・消化器内科診察室

モニターを見つめる医師。

弦、椅子に座り医師を見つめる。

医師「人間ドックの結果、肝腫瘍の疑いありだった、ということですね」

看護師、電話片手に医師に近付く。

看護師「先生、CTの予約が来月になります」

医師「ああ、そっか。もうすぐお盆だからねえ。じゃあCTとエコーは来月にしよう。

松野さん、帰りに採血して行ってね」

弦「（無表情に）はい……」

医師、弦の様子に気付く。

医師「（気遣うように）ああ、多分大丈夫だと思うから。そんなに心配しないで」

弦「……ありがとうございます」

○同・待合室

行き交う患者や看護師。

椅子に座る弦。封筒を見る。

弦「（小声で）……楽になれると、思ったんだけどな」

弦、深く息を吐き天を仰ぐ。

弦M「結婚もできず、子供も作れず、年だけを取った。……優が生きていたら。あいつなら、俺なんかよりよっぽどマシな生き方ができていたんじゃないだろうか。ずっと、そう考えてたからだろうか。結果を見た時、シヨックよりも安心した」

弦、天井を見つめたまま。

弦「……疲れた」

○河川敷脇・通学路

蝉の音が響く。快晴。

○松野家・外観（夕）

玄関の扉を開ける弦。

弦の声「ただいまー」

○同・玄関（夕）

弦、バックと紙袋を置く。靴を脱ぐ。

瞳（60）、出迎える。

瞳「連絡くれれば駅まで迎えに行ったのに」

弦「大丈夫だよ。父さんは？」

瞳「ビールを箱で買いに行ったわよ。今夜は夜通し飲むって。あんた寝れないわよ」

弦、困ったように笑う。

○同・居間（夕）

居間に入る弦。

隣は仏間。襖は外され居間と一体の空間。

仏間に飾られた優の遺影。沢山の花とお供え物。

弦、遺影を悲しそうに見つめる。

瞳、弦の肩をポンと叩く。

瞳「先に荷物置いてらっしゃい」

弦「……ああ」

○同・2階廊下（夕）

2つのドア。『ゆずる』『すぐる』とプレートが掛かる。

弦、優の部屋を開く。

○同・優の部屋（夕）

整頓された部屋。当時のまま。

弦、学習机に近寄る。

机の上に置かれた筆記用具。棚にはメ
ッセージボトルキットが飾ってある。

ランドセルはない。

デスクマットに挟まる将来の夢を書い
た紙。

優の字『冒険家になりたい』

弦「……どこまで冒険に行ってたんだよ、お前」

インターフォンの音が響く。

弦、顔を上げる。

○同・玄関（夕）

松野敬大（58）、恭隆（37）、来訪。

出迎える瞳。

階段を下りる弦。顔を覗かせる。

弦「叔父さん、恭隆、いらっしやい」

敬大、恭隆、弦を見て微笑む。

敬大「ああ、弦。久しぶりだねえ」

弦「久しぶり、叔父さんちよつと痩せた？」

敬大「はは、もう年だからねえ」

恭隆「（微笑んで）久しぶり、弦」

弦「（真顔で）え、どちら様ですか」

恭隆「（焦って）え！？」

瞳、敬大、吹き出す。

瞳、弦を小突く。

瞳「まったくこの子ったら！」

弦、笑う。

恭隆「（ジト目で）ちよつと、ひどいよ弦」

弦「悪い悪い！ さあさ、どうぞどうぞ」

上がる敬大と恭隆。後に続く弦、瞳。

背後で玄関のドアが開く。

ビール2箱両脇に抱える広大。

広大（60）「（笑顔で）おお！ 揃ってるな！」

瞳「（ピシャッと）どんだけ買ってきてんのよ

あんたは！」

笑い声が響く。

○同・居間（夜）

テーブルに並ぶ御馳走。

広大、瞳、弦、敬大、恭隆、談笑しながら食事を楽しむ。

弦、仏壇を見つめる。

盆善が供えられている。

恭隆、弦の顔を覗き込む。

恭隆「弦がこつちに帰ってくるのって5年ぶり？」

弦「もうそんなになるか？ まあ、コロナがあつたしなあ」

恭隆「結婚は？」

弦「してたらとつくの昔に報告してるわ。お前は？」

恭隆「（苦笑して）同じく。駄目だよ俺。縁ないのかも」

弦「ハードル高いんじゃないかねえの、公務員さん」
恭隆「弦に言われたくないかも」

弦「（ドヤ顔で）俺は来る者拒まずだよ」
恭隆「（ニヤニヤして）去る者も追わず誰もい

なくなつた感じ？」

弦「おつまえ！」

恭隆、弦、笑いながら取っ組み合う。

向かいの席で夢中で話す広大と敬大。

『抗がん剤』『手術』と聞こえる。

弦「……誰の話？」

恭隆「父さんだよ、去年癌が見つかつてさ」

弦「……え、どこに？」

恭隆「胃だよ。胃癌」

弦「マジか。大変だな」

恭隆「まあでも今って色々な治療方法がある

しね」

弦「確かにな」

×

×

×

(フラッシュバック)

床に置きっぱなしのA4封筒。

『人間ドックセンター』『健康診断結果

通知書在中』と書かれている。

×

×

×

恭隆、弦の顔を覗き込む。

恭隆「……弦？　どうかした？」

弦「あ、ああ、いや。ほら、飲もうぜ」

弦、新しい缶ビールを恭隆に渡す。ビールに口を付けながら、仏壇を見る。

遺影の優は笑っている。

○河川敷

弦、花束を持ち、歩く。

弦の傘が落ちていた場所。ペットボトルや花が供えられている。

弦、屈んで花束を置く。そのまま川を眺める。

男の声「あ、あの……」

弦、振り向く。

近藤（35）、窺うように弦を見る。

弦、怪訝な顔で立ち上がる。

近藤「もしかして、優の兄ちゃん……？」

弦「そうだけど、誰」

近藤「（言いにくそうに）あ、俺、近藤……」

優の、同級生の」

弦「（無表情に）……ああ、あの時の」

近藤、気まずそうに俯く。

弦、近藤が持つ花束を見る。

弦「……毎年持つて来てんの」

近藤「あ、いや。子供が生まれてから、かな。

今年、同じ年になって……」

沈黙。

弦、溜息を吐く。歩き出す。近藤の脇を通り過ぎる。

近藤、頭を下げる。

近藤「あの！ あの時！ 本当にごめん！

謝って許されることじゃないけど、本当に

……！」

弦、振り向かない。

近藤「（涙声で）本当に、すいませんでした：

……！」

弦「（小さい声で）……俺に、言われても。俺も、助けなかつたし」

近藤、無言。頭を下げたまま、首を振る。

弦、顔だけ振り向く。

弦「……なあ、本当に、あいつ、逃げたんだよな。お前達が川に落としたんじやなくて」

近藤、必死に頷く。

近藤「……あの後、逃げて行って。神社の方に」

弦「……神社？」

弦、近藤から視線を動かす。

川の上流。小山がある。入口に石段と鳥居。脇を流れる小川が河川敷のある本川に合流している。

近藤「あいつ、よく行ってたんだ。川辺の、ブロックの所」

弦「……追いかけなかったのか」

近藤「（躊躇うように）……うん。雨が、降ってきたから。それで、放つといて、帰った」

弦「そうか……」

弦、歩き出す。

近藤、弦の背を見つめる。

○ 神社・境内

弦、石段を上る。

小さな無人の神社。人気はない。

弦、懐かしそうに辺りを見渡す。本殿

脇へ歩く。

○ 同・本殿横・川辺

雑草が茂る川岸。

弦、歩く。

横倒しに置かれたコンクリブロックがある。

弦、屈む。ブロックを撫でる。

○ (回想) 25年前・同・境内(夜)

宵宮で賑わう境内。

夜店が立ち並び、行き交う人々。

○ (回想) 25年前・同・本殿横・川辺(夜)

灯籠がいくつも流れていく川。

浴衣姿の弦、優、恭隆。ブロックの元

まで走る。

弦、ブロックの上に座る。

弦「取った！」

優「ずるい！俺も座りたい！」

弦「バーカ。早い者勝ちだよ」

笑い合う弦、優、恭隆。

× × ×

コンクリに座る弦。その両脇に座る恭隆と優。

弦、カプセルトイを開く。中の玩具をみて顔を顰める。

弦「げえ、またこれかよ」

恭隆、弦の手元を覗き込む。

恭隆「(呆れて)なんでそればかり当たるの

弦」

弦「俺が聞きてえよ！」

優「俺新しいやつ！」

優、自慢気に玩具を掲げる。

弦「ずっりー！」

恭隆「優はいつつも新しいの当たるのにね」

弦「こいつさっき買ったお楽しみ袋にもすげえいいの入ってたんだよ」

優「ほら！　これ！」

優、満面の笑み。筆箱を取り出して見せる。

シルバーのホログラム。アニメのキャラクターがプリントされた派手な筆箱。

恭隆「弦は？」

弦「缶ペン……」

恭隆、吹き出す。

弦「(ぶすくれて)　なんだよこんなもの！」

弦、カプセルの殻をブロックの空洞に入れる。

優「ああ！　ごみ捨てたらだめなんだ！」

恭隆「(呆れて)　弦、それは駄目だよ」

弦「(バツが悪そうに)　……うるせえなあ、わかったよ」

弦、空洞に再度手を入れる。閃く。中で何かに噛まれた振りをして悲鳴を上げる。

助けようとする恭隆。

泣き叫ぶ優。

弦、大笑いする。

あっけにとられる恭隆と優。すぐに同じように大笑いする。

○現在・同・本殿横・川辺

ブロックに座る弦。小さく噴き出す。

空洞に手を伸ばす。

弦「……ん？」

弦、眉を顰める。空洞を漁る。

25年前のカプセルが出てくる。

弦「(驚いて)……マジかよ。残ってるもんだな」

弦、カプセルの中を開く。

中には当時の玩具の説明書。

弦、広げる。

口紅で書かれた文字『たすけて』

弦、驚く。文字を指でなぞる。指に付着する劣化した赤。

× × ×

(フラッシュバック)

優、驚いて振り向く。

口紅を塗った顔、涙を流し震えている。

× × ×

恭隆の声「弦？」

弦、体を揺らし驚く。振り向く。

近付いてくる恭隆。

弦「恭隆、驚かせんなよ」

恭隆「ごめんごめん、家に行ったらいないからさ」

弦「(誤魔化すように) ああ、ちよつと懐かしくなつて」

弦、カプセルと説明書をポケットに仕舞う。

恭隆「父さんと伯父さん達は外に食べに行くつて。俺達もどっか食べに行こう」

弦「ああ、そうだな……」

恭隆、弦、その場を離れる。

緩やかに流れる川。

○居酒屋（夜）

賑わう店内。

個室に座る恭隆と弦。雑談を交わしながら酒を呑む。

弦、室内を見渡す。

弦「こんな店できたんだな。知らなかった」

恭隆「弦全然帰ってこないからねえ」

弦「忙しくてな……」

弦、気まずそうに瞳を伏せる。

グラスを傾けながら凝視する恭隆。

恭隆「結婚は？ いい人いないの？」

弦「俺は……多分しないな。お前は？」

恭隆「（自嘲気味に）俺はできない」

弦「（嘖き出して）お前が？ どんだけ理想高

えんだよ」

恭隆「（拗ねた顔をして）仕方ないじゃないか

……」

弦「寂しいなく俺達。もう40になるぞ」

恭隆「弦はさ、戻ってこないの？ こっち」

弦「んー、こっち碌な仕事ないしな。給料も安いし」

恭隆「今は結構増えたよ。誘致企業とか」

弦「(揶揄うように)なあに、俺が居なくて寂しいの？」

恭隆「当たり前だろ。周りなんてみんな結婚しちゃって、相手してくれるの弦しかないんだから」

弦「お前、そんな理由で人を引越させようとすんなよ」

弦、恭隆、笑い合う。

○弦の夢(25年前・松野家・廊下)

雨音が響く。

薄暗い廊下。

歩く弦(37)。

啜り泣きの声。

弦、襖の隙間から中を覗く。

両親の寝室。

鏡台の前に座る優。

弦「……優」

優、驚いて振り向く。

口紅を塗った顔、涙を流し震えている。

○同（25年前・同・両親寝室）

弦、寝室に入る。優の前に屈む。

弦「……なんで泣いてんだ」

優、顔を歪める。嗚咽が漏れる。

弦「優……」

弦、優の頭に手を伸ばす。撫でる。

優の嗚咽が酷くなる。

弦「大丈夫だから、優」

優「だって」

優、弦の手首を掴む。顔を近づける。

ぽっかり開く口。中は真っ黒。

優「だって、助けてくれなかったから」

泡が沸き上がる音。

○現在・同・弦の部屋・（朝）

小さく悲鳴を上げ目を覚ます弦。

ベットから跳ね起きる。汗だく。

弦「……あ……」

弦、震えながら掴まれた手首を見る。

痕はない。手首を抑え項垂れる。

カーテンから漏れる朝日。

○河川敷

川岸に立つ弦。川面を見つめる。

背後に置かれた優へのお供え。

ポケットからカプセルトイを取り出す。

文字をなぞる。指に付着する赤。指を

擦り合わせる。

弦「まさか口紅じゃあ、ねえよな……」

弦、再び川面を見る。

男の声「そこ、あんまり近付くと危ないです

よ」

弦、振り返る。

警察官姿の今井（35）、声を掛ける。

今井「この川って浅く見えるけど意外と深い

んですよ。真ん中の方だと流れも速いし」

弦「ああ、はい……すいません」

今井、弦の顔をまじまじと見る。

今井「あれ……」

弦、首を傾げる。

今井「あの、もしかして、松野さん、ですか」

弦「……そうだけど」

今井「(恐縮して姿勢を正し)あ、挨拶もせず
すいません。あの、私、優君の同級生だっ
た今井です」

弦「……ああ、あんたも」

今井「え」

弦「いや、昨日も同級生だって言う奴がいた
から。近藤って」

今井「あ、そうでしたか……」

気まずい空気。

弦、今井の制服姿を見つめる。

弦「……警察官に、なったのか」

今井「あ、はい。……はい」

弦「(悲しそうに笑って)……そうか、すごい
な」

今井、俯いて唇を噛む。

弦「仕事、頑張れよ」

今井「(堪え切れず)あの、あの時は本当に――」

弦「(遮るように)やめてくれ」

今井、頭を下げようとして止まる。

弦「やめてくれ。お前らのせいだと思ってない」

今井「え……」

弦「お前達が、川に落としたんじゃ、ないんだろ？」

今井「(神妙に頷いて)……はい」

弦「ならいい、……それに、俺も、あいつを助けなかった」

今井、悲し気に顔を歪める。

弦「……前の日、家で、口紅塗って泣いてんの偶然見て」

弦、川の下流を見つめる。

弦、手に力を籠める。カプセルが軋む。

弦「そんで、あの日……オカマって言われて

るあいつを見て」

今井、泣きそうな顔をする。

弦「どうしたらいいかわかんなかった。もしかして本当にそうなのかなとか。そうだつて言われたらどうしようとか。俺も同じだと思われたらつて。……だから、逃げたんだ。あいつを置いて」

弦、涙を堪える。

カプセルが割れる。

弦「（驚いて）……っ」

弦、割れたカプセルを見る。

今井、弦に近付く。

今井「大丈夫ですか」

弦「ああ、大丈夫だ。25年も経ってるから

な……」

今井「25年……」

弦「昨日見つけたんだ。神社の脇のところで。

昔俺が隠したのが残ってて……」

今井、カプセルを覗き込む。説明書に書かれた文字を見る。

今井「(訝し気に) たすけて？ これも、松野
さんが書いたんですか」

弦「いや、これは違う。多分誰かの悪戯だと
思うけど……」

弦、文字をなぞる。

弦「昔、あいつが泣きながら塗ってた口紅の
色に似てて、なんか関係があんじゃねえか
って思っちゃまって」

今井「なんで、泣いてたかっていうのは……」

弦「(首を振りながら) ……わかんねえな」

今井「(考え込む) ……」

弦「何か知ってるか？」

今井「(考えながら) いや、口紅とかそういう
の付けてるところは見たことないですし
……」

弦、しばらく考える。

弦「……じゃあ、なんでオカマって呼ばれて
たんだ？」

今井「いや、すいません。俺も今それを考え
てて。別に、学校に口紅塗ってきたりとか、

スカート履いて着たりとか、女言葉使い始めたりとか、そういうのもなかったのになんでオカマって呼ぶようになったんだろうって……」

弦「言い出した奴は？」

今井「多分、河野って奴だったと思うんですけど……」

弦「河野……」

今井「(カプセルを指さして)あの、これ、預かってもいいですか？　ちよつと調べてみます」

弦「(慌てて)いや、いいよ。優が書いたと決まったわけじゃないし……」

今井「いいえ、俺も気になります。今更こんなことしたって意味はないかもしれないけど。でも少しでもあいつの為になれる可能性があるなら、やらせてもらいたいんです」

弦「……ありがとう」

今井、俯いて首を振る。

○河川敷脇・通学路

歩く弦。

恭隆の声「弦」

振り向く弦。

歩み寄る恭隆。

弦「おお、どうした」

恭隆「墓参りもう行った？ 昨日掃除に行こ

うって言ってたじゃないか」

弦「（動揺して）あ、ああ。悪い。忘れてた」

恭隆「（首を傾げて）なんかあった？」

× × ×

歩く弦、恭隆。

恭隆「優が虐められてた理由？」

弦「ああ。なんでオカマって呼ばれるように

なったのかって話になって」

恭隆「確かに。それらしいところなんて見た

ことないなあ」

弦「まあでも、あれぐらいの年だと意味わか

んねえ悪口とか言ってたからな……」

恭隆 「（吹き出して）弦は特にね」

弦 「お前なあ！」

弦、恭隆、笑い合う。

恭隆 「……気になるなら、調べてみよう」

弦 「（目を見開いて）どうやって」

恭隆 「卒アル。あれって昔は卒業生の住所が載ってなかったっけ」

弦 「そういえば……」

恭隆 「誰か知り合い探して見せてもらうのは？」

弦 「いや、多分優の分が家にある。卒業式の時、担任の先生が持ってきてくれたから」

○河野家・外観

『河野』の表札。

蝉の声。

○同・玄関

玄関に立つ弦と恭隆。

上がり框に正座する河野（35）。ボサ

ボサの髪。薄汚れたスウェット。引きこもりの姿。

河野「(おどおどしながら)神社で男とキスしてたのを見たって奴がいて……」

弦「男って？」

河野「大人の男だったって。俺は見てないんですけど」

恭隆「見たって言った奴は？ 同じクラスなのか？」

河野「隣のクラスの小柳って奴です。小柳悠馬。俺、塾が一緒に、確かそこで聞いたんだと思います……」

弦「小柳……。そいつもまだ地元にいるか？」

河野「い、いえ。あいつは轢き逃げに遭って……」

弦、恭隆、驚く。

河野「優が居なくなってからそんなに経ってない頃だったと思います。通ってた英会話教室の帰りに」

○路上

歩く弦、恭隆。

恭隆、スマホをタップする。

恭隆「犯人は見つかってないみたいだね。目

撃者もいないみたい」

弦「時期は？」

恭隆「優がいなくなってから2か月後」

弦「(考え込む)……」

恭隆、顔を上げて看板を指さす。

恭隆「ああ、あれだよ弦」

弦、視線を上げる。

100メートル程先にある古びた看板。

『三上英会話教室』の文字。

弦「あれか……つと」

弦、足元に屈む女性とぶつかる。

小柳聡子(60)、バランスを崩し地面

に手をつく。

弦、慌てて手を伸ばす。

弦「すいません！ 足元見てなくて」

聡子「(すまなそうに)いいえ、こっちこそこ

んなところに蹲っててごめんなさい」

弦、聡子を助け起こす。

電柱に供えられた花とペットボトルに
気付く。

弦「(お供えを見て) ……えっと、それって」

聡子「(言い淀んで) ああ……。息子がね、こ
こで事故に遭って」

弦「…：もしかして、あの、小柳悠馬君の、
ご家族の方ですか」

聡子「(狼狽えて) え、…：はい」

× × ×

電柱を見つめて立つ聡子、弦、恭隆。

聡子「あの日はひどい雨でね。そのせいで証
拠になりそうなものはほとんど見つから
なかつたって…：」

弦「監視カメラとかは…：？」

聡子「(苦笑して) ここは大通りから外れてる
からね。そういうのもなくて。25年も前
だもんねえ」

弦「(悲しそうに) …：…」

聡子「行きたくないって。いつものサボりか
と思っちゃんとな聞かなかったわ。行かせ
なきゃよかった」

弦「行きたくない理由って……」

聡子、目を伏せて首を振る。

聡子「教えてくれなかった。聞いても答えて
くれなくて」

弦、聡子、恭隆、暫く沈黙。

弦「(躊躇いながら)あの、実は、俺の弟が、
男と神社でキスしてるのを見たって、当時
悠馬君が周りに言っただらしいんですけ
ど……」

聡子「(驚いて)悠馬が？ その弟君って……」

弦「松野、優です。悠馬君の事故の2か月く
らい前に川で行方不明になって……」

聡子、驚いて口を抑える。

弦「何か、悠馬君から聞いてたりしませんか？」

聡子「(首を振って)同学年の生徒が川で行方
不明になったっていうのはお便りで知っ
てたけど、まさかあの子の知り合いだなん

て……。そんなこと一言も……」

弦「（申し訳なきように）すいません、今更こんな話を……」

聡子「（慌てて）いいのよ、謝らないで」

聡子、深く息を吐く。

聡子「（悲しそうに笑って）生きてたら、あんな何やってんのって拳骨の一つも落としたりやっただけど。ごめんね……」

弦、首を振る。

弦、恭隆、聡子と挨拶をし、その場を後にする。

○三上英会話教室・教室前路上

3階建ての古いビル。1階を封鎖するシャッターは歪んでいる。

2階の窓に『三上英会話教室』のサイン。窓から見える荒れた室内。明らかに無人。

弦、ビルを見上げる。

弦「あれ……」

○（回想） 25年前・同・2階・教室

教壇に立つ三上壮介（33）

机に座り前を見る弦、優、恭隆。

○現在・同・教室前路上

弦、恭隆に向き直る。

弦「ここ、普通だったことなかったか」

恭隆「一瞬だけね。俺も弦もすぐに辞めたじ

ゃん」

弦「そうだったか……」

弦、周囲を見渡す。

電柱に張り紙。子供の顔写真が載っている。

弦、電柱に近付く。

弦「これって……」

行方不明者捜索の張り紙。失踪者は小学生。失踪日時は25年前。

恭隆「轢き逃げに遭った子じゃなくて別の子？」

弦「みたいだな。どうなってんだ、この辺り。

物騒すぎだろ」

恭隆「本当にね」

弦、ビルを仰ぎ見る。

弦「教室は：：もう誰も使っていないみたいだな。いつ閉めたんだろうな」

恭隆「見た感じ随分前だと思うけど。：：もしかししたら父さんが先生の事何か知ってるかも」

弦「叔父さんが？」

恭隆「うん、だってあの頃の俺達の習い事って大体父さんが見つけてきてたじゃないか」

弦「そういえば。叔父さん知り合い多かったもんな」

恭隆「帰ったら聞いてみるよ。俺達もそろそろお墓の掃除に行かないと」

弦「そうだな」

弦、恭隆、その場を後にする。

○現在・松野家・弦の部屋（夜）

ベットに座りノートPCを見る弦。

弦「これか。……男子小学生轢き逃げ事件」

弦、記事を読む。

画面を下にスクロールする。掲載された通りの写真。端に小さく映る『三上英会話教室』の看板。

弦「（考えて）……」

弦、検索ボックスに『小学生 行方不明 事件』と入力。

検索結果をクリック。新たな記事を見る。

以下、記事の本文。

『英会話教室からの帰宅途中、行方がわからなくなりました。途中まで一緒に帰宅していたクラスメートの話では……』

弦、記事をみて考える。

弦「英会話教室……。優も、小柳悠馬も、この子も通ってた。しかも全員同じ、25年

前……」

弦、ノートPCを閉じる。立ち上がる。

○三上英会話教室・1階（夜）

シャッターの隙間から滑り込む弦。

立ち上がり、辺りを見渡す。

室内に明かりはない。

椅子やキャビネットが散乱し、天井や

壁紙も剥がれて荒んだ状態。

受付テーブルの横に階段。

忍び足で階段を上る弦。

○同・2階・教室（夜）

扉の前に立つ弦。

窓から月明かりが入る。

散乱する机、椅子、パーテーション。

床には無数の書類。

弦、屈んで一つ一つ書類を拾う。

電気の検針票やガスの請求書。宛名に

印字された『三上壮介』の文字。

弦、しばらく目を通す。
カプセルトイの殻が転がってくる。弦
の膝にぶつかる。

弦、気付いてカプセルを手取る。転
がってきた方角を見る。
パーティーシヨンの隙間から覗く子供の
顔。

弦「（驚いて）うわ！」

弦、尻餅を付く。そのまま子供の顔を
凝視。

弦「（気付いたように）……え？」

弦、立ち上がる。恐る恐るパーティーシ
ヨンに近付く。退かす。
英会話教室のポスター。沢山の子供の
顔が掲載されている。

弦「（深く溜息をついて）……なんだよ」

弦の背後から手が伸びる。

弦、床に抑えつけられる。

弦「（動揺して）え、なっ」

覆面を被った黒ずくめの男（に扮した

恭隆。以下恭隆と表記)、弦の背中に乗り上げる。

弦、顔だけ振り向く。

弦「……なんだよお前！」

恭隆、無言。弦の両手を背中に回し、拘束しようとする。

弦、もがいて拘束を解く。恭隆を突き飛ばす。逃げる。

恭隆、弦の足首を掴む。

弦、転ぶ。

弦「はなせ！」

弦、足を振る。拘束が解ける。教室を飛び出す。

恭隆、床に伏せたまま。

弦の足音が遠のく。

恭隆、起き上がる。窓に近付く。

○路上（夜）

路上を走り去る弦の後ろ姿。

○三上英会話教室・2階・教室（夜）

恭隆の足元に転がるカプセルトイの殻。
恭隆、一瞥。踏み潰す。

○松野家・門前（夜）

門に寄りかかりながら荒く息をする弦。

恭隆の声「弦？」

弦「うっお！」

弦、驚いて振り向く。

背後に立ち驚く恭隆（変装を解いた姿）。

恭隆「（心配そうに）何、どうしたのこんな時

間に」

弦、ずるずる座り込む。

弦「おま、お前……お前って奴は」

恭隆「（驚いて）え、俺！？」

× × ×

恭隆「教室に侵入したら襲われた？ 誰に？」

弦「いや、わかんねえ。覆面してたし……」

恭隆「それ警察に言った方がいいんじゃない

い？」

弦「いやでも、不法侵入したのは俺だしな：
」

恭隆「それはそうだけど……。といひかなん
でそんなことしたのさ」

弦「(気まずそうに)：：行方不明になった子
の貼り紙、お前も見ただろ？ あの子もあ
の教室に通ってたみたいなんだよ。なんか
怪しいなと思つて」

恭隆「確かに……。でもそれで不法侵入つて。
通報されたらどうするのさ」

弦、両手で顔を覆う。

弦「ですよね……。」

恭隆「まあでも、ここで会えてよかつたよ」

弦「そういうえばお前は？ こんな時間に何し
てんだよ」

恭隆「父さんが急に具合悪くなつて。救急に
連れて行つたんだよ」

弦「(驚いて)マジか、大丈夫なのかよ」

恭隆「平気だよ。念のため今夜は一日入院だ
つていうから。今その帰り」

弦「(安堵して) そっか……」

恭隆「ああ、そうそう。聞いてみたよ英会話教室のこと」

弦「叔父さん、何て？」

恭隆「大学時代のクラスメートだって話だよ。でも優が居なくなっただけで先生とも疎遠になったから、今どこにで何してるのかは知らないって」

弦「そっか……」

恭隆「……一応うちの中も探してみる？」

弦「探すって……」

恭隆「あの人頻繁にいろんな人から手紙とか贈り物とか届くからね」

弦「そうか、その手紙の中に、三上からのもあるかもしれないな」

恭隆「そういうこと。行こう」

弦「今からか？」

恭隆「早い方がいいだろ？ それに俺がいたら襲われても助けてあげるよ」

弦、唇を付き出し、拗ねる。

弦「人をお弱い奴みたいにするのやめてもらっていいですか」

弦、恭隆、笑って歩き出す。

○松野（敬大・恭隆）家・居間（夜）

整頓された室内。

テレビの背後、壁一面は本棚。様々な本が並んでいる。

弦「いつ見てもすげえな」

恭隆「（苦笑して）本さえあれば生きていける人だからね。届いた手紙とかは多分ああいふところに入れてる」

恭隆、指をさす。

本棚の所々に引き出し式の収納ケースや箱が収まる。

恭隆「俺は上の書齋を見てくるよ。弦はこっちよろしく」

弦「おお、悪いな」

恭隆「明日ご飯奢って」

弦「お前それが狙いかよ！俺よりいい給料

貰ってんだろ！」

恭隆「それは貯金するからさ」

弦「お前って奴は！」

弦、恭隆笑い合う。

× × ×

時計の音が響く。

床一面に広がる封筒。蓋が開かれた箱

や収納ケース。

封筒の宛名を確かめる弦。手を止めて

天を仰ぐ。

弦「三上って名前はないな……。てか叔父さ

ん知り合い多すぎだろ」

弦、収納ケースを持ち上げる。

中に何かが入っている音。

弦「ん？」

弦、収納ケースの中を見る。中は空。

揺らしてみる。中から音がする。

弦「(眉間に皺を寄せ) ……これって」

弦、引き出しの中に手を入れ底板の縁
を辿る。外れる。

弦の太腿に滑り落ちる複数の封筒。1
本のVHSカセット。
封筒に住所と『三上壮介』の名が書か
れている。

弦「三上、壮介……」

弦、封筒を手取る。

封筒の中身は空。

弦、VHSカセットを手取る。

テレビの下の置かれたVHSデッキ。

弦、デッキに電源を入れる。VHSカセ
ットを再生する。

○VHSカセット映像（同・廊下）

画面上部に25年前の日付。

廊下を進む場面。撮影者は写らない。

目線は140センチメートルほど。

扉の前で止まる。

扉が静かに開く。

隙間から見える寝室。

口紅をつけてベットに座る優。

近付いて口づける敬大。

○現在・同・居間（夜）

盗撮された映像が流れるテレビ。

弦、愕然とする。

背後から物が落ちる音。

弦、振り向く。

廊下に立ち尽くす恭隆。

足元には落ちたスマホ。

恭隆「（震えながら）なに、それ……」

弦、震えながらテレビに視線を戻す。

画面では性交を続ける優と敬大。

弦「（呆然と）優……」

○高速道路

行き交う多くの車。

○恭隆の車・車内・走行中

恭隆、運転中。無表情。

弦、助手席に座る。

弦「(氣遣うように)……叔父さんの迎えに行かなくていいのか」

恭隆「(淡々と)一人で帰れって言った」

弦「そっか……」

弦、手元の封筒を見る。

封筒に書かれた住所と『三上壮介』の名前。

後部座席に置かれたVHSカセットと他の封筒。

弦「封筒の中身はどこにいったんだろうな……」

恭隆「捨てたんじゃない？ あんなものと一緒に入ってたんだから、ろくなことは書いてないだろ」

弦「(考え込む)……」

○山道

片側1車線の狭い道路。道路脇は林。

古い民家がまばらに立つ。

通り過ぎる恭隆の車。

○山道・脇道

砂利の坂をゆっくり上る恭隆の車。

木々が開けた場所。

停車する。

○廃棄場・入口

廃車、タイヤ、投棄された家具家電が
積みあがる広場。

弦、恭隆、車から降りる。辺りを見渡
す。

弦「……間違えたか？」

恭隆、遠くを指さす。

恭隆「でも、あそこに小屋があるよ。あと家
も」

廃棄場の奥にプレハブの車庫。

その奥は林。その先に家屋の屋根。

弦「行ってみるか……」

弦、恭隆、周りを見ながら歩き出す。

○プレハブの車庫・入口前

シャッターは空いたまま。
頭から入っている廃車。

○同・中

弦、中に入る。

壁に沿うように置かれたカラーボックスや棚。劣化している。

棚の上に置かれたランプ、扇風機、灰色に変色した筆箱。

ガラクタが所狭しと置かれている。

弦、キョロキョロ見回す。車に視線を向ける。驚く。

フロントガラスが割れバンパーも歪んだ車。

弦「……おい、恭隆」

恭隆、弦の背後から覗き込む。

弦「……これ、轢いてるよな、絶対」

恭隆「もしかして、小林悠馬を轢いた車を、ここに隠した……？」

男の声「何をしている！」

弦、恭隆、驚く。

車庫入口に立つ三上（58）。

弦「（慌てて）あ、ちよつと聞きたいことがあつてー」

三上「（遮って大声で）不法侵入だぞ！ 出て行け！」

弦「ちよつと話をー」

三上「黙れ！ 警察呼ぶぞ！」

弦「（ムツとして）警察を呼ばれたら困るのはー」

恭隆「（遮って）弦！ この人の言う通りにしよう」

恭隆、弦の腕を掴み引き寄せる。

恭隆「（声を潜めて）まだ確証はないから、万が一違つたらまずいだろ」

弦、唇を噛み堪える。

○恭隆の車・車内

乗り込む恭隆、弦。

恭隆、エンジンをかける。

弦、リアウインドウを見る。

睨みながら近寄ってくる三上。

恭隆「……あの人、だよ。俺達が通ってた

英会話教室の先生」

弦「多分そうだよ。向こうは覚えてねえみ

ただけ」

恭隆「今は話を通じなさそう。出直そう」

弦「(悔しそうに)……ああ」

車が走り出す。

○廃棄場・入口

廃棄場を背に立つ三上。

車が去った方角を睨みつける。

○恭隆の車・車内・走行中(夕)

恭隆、運転中。横目で弦を見る。

弦、スマホを見つめて葛藤。

恭隆「弦？」

弦「……警察に相談したって」

恭隆「動いてくれるかな。そもそも廃車置き場だし、ああいうのを預かっててもおかしくない。もし間違いだったら」

弦、天を仰ぎ溜息。

弦「訴えられるのはこっちだな」

弦、恭隆、沈黙。

走り続ける車。

恭隆「……父さんに、聞いてみるよ」

弦「（気遣うように）俺も一緒にー」

恭隆「（遮って）いや、いい。俺だけで。……」

頼むよ」

弦「わかった……」

○高速道路（夕）

行き交う多くの車。

橙色の空。沈む太陽。

○松野家・優の部屋（夜）

ベットに腰かける弦。考え込む。

傍らには三上の封筒、VHSカセット。

弦 M 「優と叔父さんの関係。多分同意の上じやない。三上はそれを盗撮して、VHSを送って……。何の為に？　そもそも手紙の中身はどこにいった？」

弦、天井を仰ぎベットに倒れる。

弦 M 「……誰かと神社でキスしてた優。相手は叔父さんか？　それを見た小林悠馬は叔父さんの知り合いの三上の生徒で三上の教室の近くで轢き逃げに遭って……」

弦 「ああ、くそ、わかんねえ……」

弦、顔を横に向ける。

学習机が目に入る。棚に飾られたメッセージボトルキット。

弦、立ち上がり机に近付く。メッセージボトルを持つ。

× × ×

(フラッシュバック)

弦、カプセルの中を開く。

中には当時の玩具の説明書。

弦、広げる。

口紅で書かれた文字『たすけて』

× × ×

弦、震えながら膝をつく。

弦「……あんなのに書かなくなっちゃって、言え
ばよかっただろうが」

弦、顔を歪める。

弦 M「(苦しそうに) ……違う。わかっている。
言えない状態を作ったのは、俺だ」

弦、泣く。

机の上に置かれた筆記用具。弦の手が
当たる。鉛筆が落ちる。

落ちた鉛筆を眺める弦。目を見開く。

○山道（夜）

明かりがない山道。通り過ぎる車。

○広大の車・車内・走行中（夜）

運転する弦。

× × ×

（フラッシュバック）

弦、中に入る。

壁に沿うように置かれたカラーボックスや棚。劣化している。

棚の上に置かれたランプ、扇風機、灰色に変色した筆箱。

ガラクタが所狭しと置かれている。

× × ×

弦、歯を食いしぼる。アクセルを踏む。

○山道（夜）

猛スピードで走る車。

○プレハブの車庫・中（夜）

明かりはない。

微かに響く物音。

棚を漁る弦。手探りで筆箱を掴む。

スマホのライトで筆箱を照らす。

劣化した優の筆箱。

× × ×

（フラッシュバック）

優、満面の笑み。筆箱を取り出して見せる。

シルバーのホログラム。アニメのキャラクターがプリントされた派手な筆箱。

× × ×

弦、震える手で筆箱を撫でる。

弦「（荒く呼吸して）……あ、あ。あ」

弦、筆箱を胸に抱く。崩れ落ち、嗚咽を上げる。

背後に立つ人影。

砂利を踏む音。

弦、振り向き様バットで殴られる。倒れる。

○松野家・玄関（夜）

玄関で話す瞳、恭隆。

瞳「いきなり車借りるって言って出て行って

……」

恭隆「（愕然として）弦……！」

恭隆、玄関を飛び出す。

今井、門前で恭隆にぶつかりそうになる。

恭隆、そのまま立ち去る。

今井、困惑。恭隆の背中を見つめる。

背後から瞳の呼ぶ声。

○三上家・風呂場（夜）

明かりは点いていない。

空の浴槽に横たわる弦。額から流血。

猿轡、後ろ手に縄で縛られている。

外で言い争う声。

弦、目を覚ます。

弦「……ん」

弦、ぼんやりと辺りを見渡す。縛られていることに気付く。驚いて体を動かす。

外で沢山の物が落ちる音。何か割れる音が響く。

弦、驚いて身を振る。

ガラス戸に人影が映る。開く。

敬大「……おや、起きちゃったかい？」

弦、目を見開いて呻く。

敬大「（穏やかに笑って）ああ、ごめんよ。苦しかったよね」

敬大、優しく弦の猿轡を外す。

弦、震えながら敬大を見上げる。

弦「どうして、叔父さんがここにー」

敬大、キョトンとし、その後微笑む。

敬大「弦は？ どうしてここにいるの？」

弦「（言葉に詰まって）あ……」

敬大「……まあいいや。おいで」

敬大、弦の腕を掴み立たせる。

引き摺るように連れて行く。

○同・居間（夜）

敬大、弦を床に放り投げる。

弦、呻く。辺りを見る。

散乱する家具。争った跡。

壁に凭れて荒く息をする三上。腹に包

丁が刺さり流血。

弦「三上……」

敬大「ああ、やっぱり弦も覚えてたんだね。

昔通ってた教室の先生」

弦「（震えながら）なんでこんな……。叔父さんが、やったのか」

敬大、ローテーブルにゆったり腰を掛け、足を組む。

敬大「この間はびっくりしたよ。いきなり恭隆からこいつのこと覚えてるかって聞かれるもんだから。なんか嫌な予感がしてどうしようか考えてたんだけどね」

弦、呆然と敬大を見る。

敬大「そうこうしてるうちに今度はこいつから電話がきてね。変な男が訪ねてきたって。車種を聞いたら恭隆のだし。これはまずいと思って慌てて来たんだけど。まさか鉢合わせるとはねえ。でもまあ、間に合ってたよ」

弦「間に合ったって……何に？」

敬大「（にっこり笑って）後始末に、だよ」

○高速道路（夜）

猛スピードで走行するパトカー。

○パトカー・車内・走行中（夜）

今井、運転中。

助手席に座る恭隆。

恭隆、電話を掛ける。

電源オフのアナウンスが車内に響く。

恭隆「くそ……」

横目で恭隆を見る今井。視線を正面に戻しアクセルを強く踏む。

○三上家・居間（夜）

弦、敬大を見上げる。

敬大、組んだ足の上で頬杖をつく

敬大「（顎で三上を指して）こいつはね。本当にどうしようもない奴なんだ。大学にいた頃から僕のことが好きで好きで仕方なくてね。試しに一回抱かせてやったらすつか

り夢中になっちゃってねえ」

弦、驚いて三上を見る。

三上、苦悶の表情で目を瞑る。苦し気に呻く。

敬大「それだけならよかったんだけど卒業してからもずーっと付き纏ってね。挙句の果てには恭隆の母親に僕の趣味をバラすもんだから、離婚になっちゃって」

弦「趣味って」

敬大「(眉を上げ)おや、それは知らなかったのかい」

敬大、弦の前髪を掴んで持ち上げる。

敬大「(にっこり笑って)僕はね、弦。男の子が好きなんだ。優ぐらいの年の男の子。そんな子を優しく愛してあげるのが、すごい好きなんだ」

弦「優も、叔父さんが……」

敬大「そうだよ、だってあの子ったら家に来て口紅を塗ってまで僕を誘惑してくるんだもの。かわいいよね。すっかり夢中にな

ってしまった」

弦「(激昂し) 優はそんなことー」

敬大「しないって? でも事実だよ。あの子は僕を欲しがってたし、僕もあの子を愛してた」

弦、呆然とする。

弦「そ、んなこと、優は」

敬大、陶然と語る。

敬大「ああ、でも気分屋だったのかな。いつもだったら大人しく言う事を聞くのに、あの日だけは酷くぐずっっちゃってね」

○(回想) 25年前・神社・本殿横・川辺(夕)

雨。

ブロックに座り泣く優。

傘をさして近づく敬大。

敬大「優? どうしたの?」

優、体をビクつかせて振り返る。

優「(怯えて) お、おじさん」

敬大「虐められたのかい? おいで、慰めて

あげよう」

敬大、微笑みながら優の腕を掴む。

優「や、やだ、やめて！ いやだ！」

優、抵抗する。

敬大「どうしたの？ 優？ いつもは喜ぶだろ？」

優、泣き出す。

優「やだ！ 助けて！ 助けて！ 誰か！」

敬大、笑って優を抑えつける。

揉みあう敬大と優。

敬大、優の首を絞める。

敬大M「うっかり興奮しちゃってね。気付いたら息をしてなかったんだ」

優、意識がない。

敬大、優を呆然と見つめる。

敬大M「（笑いながら）しまった、と思ったよ。やりすぎちゃったって。だから後始末を頼んだのさ、三上に」

敬大、携帯電話を取り出し、掛ける。

話をしながらその場を去る。

茂みに残された優。ランドセル。

○（回想）25年前・同・石段前（夜）

雨は止んでいる。

停車する車。

降りる三上。

辺りで優を探す声。

三上、カップを深く被り石段を上る。

○（回想）25年前・同・本殿横・川辺（夜）

優の死体を持ち上げる三上。

背後から優を探す声が近づく。

敬大M「でも三上が神社に着いた時にはもう

優の搜索が始まってしまっていてね。本当

は持って帰ってきて欲しかったんだけど

難しくて」

三上、優の死体を川に流す。

濁流に飲まれ、見えなくなる死体。

三上の背を懐中電灯の明かりが照らす。

振り返って片手で光を遮る三上。

懐中電灯を当てる町内の人。

町内の人の声「おおい！ アンタも優君探してるのか？」

三上「（声を張り上げて）そうです！ 他に探していないところはありますか？」

三上の足元に転がるランドセル。

三上、そっと動き背後にランドセルを隠す。

町内の人の声「小学校の方にも児童館の辺りにもいないらしい！」

三上「わかりました！ もう少しこの辺り探してみます！ 見つかったら教えてください！ さい！」

町内の人の声「こっちは念のため下流の方を探してみる！ アンタも見つけたら教えてください！」

町内の人、立ち去る。

三上、カップを脱ぎランドセルを包む。
立ち去る。

○現在・三上家・居間（夜）

敬大、組んだ足を解く。

敬大「ランドセルの始末は三上に頼んでただけ。まさか未だに保管してたとは思わなかったよ。まあ、下手に捨てて足がついても困るしね」

壁に凭れる三上。呼吸は浅い。

敬大「死体が見つかるまではちよつとヒヤヒヤしたよ。もし生きてたらどうしようって。でもちゃんと上がってくれてよかった」

弦、敬大を凝視し涙を零す。嗚咽が漏れる。

敬大、にっこり微笑む。

敬大「やっぱいい子だね、優は」

弦「（泣き叫んで）この糞野郎！」

弦、立ち上がって敬大に向かっていく。

敬大、笑いながら弦の頭を掴む。横に薙ぎ払う。

弦、ガラスの障子戸にぶつかる。

障子戸が倒れ、ガラスが飛び散る。

敬大、困ったように笑う。

敬大「やっぱり僕は優の方が好きだなあ、弦はちよつと乱暴だよ」

弦、床に蹲り呻く。

敬大「本当はこいつだけ自殺に見せかけて始末するつもりだったんだけど。仕方ないよね」

敬大、立ち上がり、弦に近付く。

敬大「ねえ、こんなのはどう？ 優は当時通っていた英会話教室の先生に殺されていた。それを知った弦は犯人を問い詰めて弟の遺品を手に入れた。でも結局返り討ちにあって」

敬大、目の前に屈む。弦の首に包丁をあてる。

敬大「二人とも死んだ」

弦「（絞り出すような声で）……そうやって、なんでもかんでも三上に擦り付けてきたのか」

敬大「心外だね。あいつが喜んでやってた事

さ。それで僕の傍にいられるならってね」

弦「小柳悠馬の轢き逃げも、もう一人の小学生の失踪も？」

敬大、首を傾げ思い出す素振り。

敬大「轢き逃げ……。ああ！ それはあいつが自分でやったことだよ。どうも前に僕と優が愛し合ってるところを見ちゃったみたいだね。うっかりあいつの教室を尋ねた時に鉢合わせしちゃったんだ。でも僕が何か言う前にあいつが自分で始末してたよ」

弦、悲しそうに顔を歪める。

敬大「その後、どうしても優が恋しくなつて、似てる子に声を掛けたんだけど……。やっぱり他の子は駄目だね。あんまりにも騒ぐから面倒になっちゃって」

敬大、包丁を弦の目の前の床に刺す。

敬大「（にっこり笑って）すぐに殺しちゃった」
弦「……」

敬大「流石に立って続け過ぎて、三上もあそこに居られなくなつてね。まあ鬱陶しい奴か

ら解放されたから、それはよかったんだけど。でも毎年のようにラブレターを送ってくるのには閉口したよ。こっちで一緒に暮らそうとか、いつ来るんだ、とか。もしバラしてやる、なんて書いてこようなものならすぐに始末してやるつもりだったけど、一向にそんな素振りも見せないからここまて来てしまった」

弦「……自首、しろよ。恭隆だって、あんたが何やったか知ってるぞ。ここで俺が死んだって、証拠のVHSだってある」

敬大、キョトンとする。

敬大「VHS……？」

弦「(声を荒げて) どうせもうすぐ癌で死ぬんだろうが！ だったら全部自白して死ぬよ！」

壁に凭れる三上。ぴくりと指を動かす。
薄っすら目を開ける。

敬大「(微笑んで) わかってないなあ。最後まで
らい安らかに死にたいと思うのは当たり前

前のことだろう？ 恭隆だつてわかつて
くれるさ。昔から物分かりのいい子だしね」

弦、悔しそうに敬大を睨む。

敬大、包丁を頭上に掲げる。

敬大「だから、諦めてお休み。弦」

弦、体ごと敬大に頭突きする。

敬大、後ろに倒れる。

弦、走り出す。

敬大、床に蹲り咳き込む。

敬大の背後で身じろぐ三上。

○廃棄場・入口（夜）

足を纏れさせながら走る弦。

廃棄場入口に車はない。

弦「（息を切らしながら）……車、どこ行った、
くそっ」

弦、背後を見る。

遠くから聞こえる敬大の呼び声。

弦、舌打ち。投棄された家具家電の合
間に走る。

○廃棄場（夜）

敬大、包丁を持ちながらのんびり歩く。

敬大「（微笑みながら）弦、出ておいで。叔父さんが悪かったよ。ちよつとした冗談だったんだ。さあ、一緒に帰ろう」

弦、積まれた廃車の影に隠れる。息を潜める。辺りを見渡す。

腐った木材の上に突き刺さった鋸。

弦、目を見開く。

× × ×

廃車の影に止められた広大の車。

敬大、中を覗き込む。

車内は無人。

敬大「（肩を落として）やれやれ。もう休みたいのにな……」

敬大、辺りを見渡す。

林の奥（三上家の方角）に橙の明かり。

敬大「（首を捻り）……？」

弦、敬大の背後に現れる。背中を蹴る。

敬大、前のめりに倒れる。

弦、敬大の手に鋸を振り落とす。

敬大、絶叫。

弦、包丁を蹴ってどかす。敬大の襟首

を掴み振り向かせる。

腰に跨り殴る。殴る。殴る。

弦「糞野郎！ 糞野郎！ よくも！ よくも

優を……！」

敬大、抵抗できず殴られ続ける。

弦「（泣きながら）よくも！ よくも……！」

弦、ひたすら敬大を殴る。

弦M「なんで、あの時こうしなかったんだろ

う。あの時、もっと早く、こうしていれば、

助けてやっていたらば」

×

×

×

（フラッシュバック）

優、満面の笑み。筆箱を取り出して見せる。

シルバーのホログラム。アニメのキャラクターがプリントされた派手な筆箱。

× × ×

気絶する敬大。

弦、敬大の襟首を掴み項垂れる。泣き

叫ぶ。

× × ×

嗚咽を上げる弦。

背後から近付く三上。

敬大、薄っすら目を開く。くつくつ笑

う。

弦、訝し気に敬大を見る。

三上、弦の襟首を掴み、投げ飛ばす。

弦、広大の車に後頭部を打つ。

三上、荒く息を吐きながら敬大の体を

担ぐ。

敬大、面白そうに笑う。

弦、朦朧としながら三上に手を伸ばす。

弦「待て、待てよ。待て……」

弦、掴めず地面に倒れる。

弦「（泣きながら）待てよお……！！」

三上、弦を一瞥し、その場を去る。

○プレハブの車庫・入口前（夜）

三上、敬大の体を担ぎながら歩く。よろめいて倒れる。

敬大、地面に転がる。

三上、脇腹を押さえて呻く。

敬大、転がったまま笑う。

敬大「お前、本当に僕のこと好きだね」

三上、敬大を睨む。

三上「……愛してるって、言ってるだろう。もう、何度も」

敬大「でも、もう無理だろ。大人しく死ねよ」

三上「……一緒に、死ぬって、約束した」

敬大「（呆れた様に）先に逝けよ。僕はまだ死なない」

三上、四つん這いのまま、敬大に近づく。頬を撫でる。息が荒い。

三上「……約束した。一緒に死ぬって。死ぬ時だけは俺と一緒にいてくれるって。だから、俺は、ずっと待ってた」

敬大、蔑むように笑う。

敬大「そんなの僕が守るって本当に思ってたのか」

三上、悲し気に目を伏せる。

三上「(諦めたように) : : : そうだな、お前はいつもそうだ。どれだけ求めても、どれだけ尽くしても、お前はいつも俺を選ばなかった」

三上、立ち上がり、敬大の足を掴む。

敬大、驚く。

敬大「おい！？ 離せ！」

三上、敬大の足を掴んで引き摺る。

三上「(ブツブツと呟く) 癌なんか取られて堪るか。お前は俺のだ。最後には俺の、俺だけのものだ。死ぬときは、一緒だって。死んで、死んだ後も」

敬大「(暴れながら) やめろ、離せ！ どこにいく気だー」

敬大、顔を上げて絶句。

橙色の明かりに照らされる三上と敬大。

○三上家・正面（夜）

燃え盛る家屋。

敬大を中に引き摺る三上。

必死にもがく敬大。

敬大「やめろ！ やめろ！ やめてくれ！

壮介！」

三上、焦点の合わない目で敬大を抱きしめる。

三上「（ブツブツと呟く）俺のものだ、俺の、俺だけの。ようやく。俺だけのものになる。

一緒に、死んで、死んだ後も、ずっと、ずっと」

三上、敬大を抱きしめたまま火の中に

飛び込む。

木霊する敬大の絶叫。

天高く上がる火柱。

弦、よろめきながら家屋に近寄る。膝をつき、呆然と見上げる。

恭隆の声「弦！」

今井の声「松野さん！」

弦、ぼんやりと振り返る。

恭隆、弦を抱きしめる。

恭隆「（安堵して）よかった！ よかった！

無事だ！ よかった！」

今井、無線で応援を呼ぶ。

弦、膝元を見る。

劣化した優の筆箱が落ちている。

弦、震えながら筆箱を手に取る。ぼろ

ぼろと涙を零す。蹲り、叫ぶ。

林の天辺を越す火柱。

鳴り響く消防車のサイレン。

○病院・外観

照り付ける日差し。

蝉の音が響く。

○同・廊下

行き来する看護師や患者。

○同・病室

ベットに横たわる弦。朦朧としながら横を見る。

瞳、広大、肩を寄せ合い泣く。

弦、入口に視線を移す。

ドアの隙間に見える恭隆の背中。警察官と話中。

弦、天井をぼんやり見上げる。

弦 M 「結局、叔父さんは死んだ。三上と一緒に」

○三上家・跡地（朝）

焼け跡を調べる消防隊員達。

弦 M 「焼け跡からは2人の遺体の他に、子供の骨も見つかった。多分、25年前行方不明になった子の、骨」

2か所に張られたビニール。出入りする鑑識達。

折り重なった2つの焼死体。

子供の頭蓋骨らしきもの。

○プレハブの車庫・中（朝）

廃車や棚の中を調べる警察官達。

弦 M 「そして、あの車庫には優の筆箱だけでなく、ランドセルや、小柳悠馬を轆いた車。行方不明の少年の私物などが次々と見つかった」

○病院・病室

ベットに横たわる弦。天井を見る。

弦 M 「あの時、助けていたら。たったそれだけのことができていたら」

弦、泣く。両手で顔を覆う。

弦 M 「たったそれだけのことだったのに」

瞳、広大、弦に手を伸ばす。

弦、歯を食いしぼる。両手の隙間から零れる涙。

弦 「（絞り出すように）優……！」

瞳、広大、弦を抱きしめながら泣く。

弦 M 「楽になんてなれるわけないんだ。生き

なきやいけない。お前を守れなかった、助けられなかった自分を、何年も、何十年も、一生責めて、責めて、責め続けて、後悔して、生きなきやいけないんだ」

○神社・本殿横・川辺

強い日差し。

緩やかに揺れる木々。蝉の声。

穏やかな川。

川辺で遊ぶ子供達。笑い声。

陽光を反射する水面。何かが中で跳ねる。

○アパート・弦の部屋・居間

部屋に置かれた複数の段ボール。

弦、蓋を開き中身を取り出す。

恭隆、段ボールを抱えて入室。

恭隆「(申し訳なきように)悪いね。この年で居候なんて。自業自得なんだけど、居づらくて」

弦「ばあか。何が自業自得だよ。気にすんなって」

恭隆、苦笑する。段ボールを置いて、梱包を解く。

恭隆「(キョロキョロしながら)それにしても思ったより広いんだね。弦のアパート」

弦「結構古いし、駅からも離れてるからな。

「そーいやお前仕事はちゃんと休職できたのか？」

恭隆「うん。でも復帰できるかどうか。もういつそこっちで就職しようかな」

弦「いいんじゃないやね。先のことは考えねえで今はゆっくりしろよ」

恭隆「そうだね……。ところで明日病院って言うってたっけ。何時？」

弦「10時」

恭隆「送るよ。布団も買ってきたいし」

弦「(愕然として)そーいえばないな！」

恭隆「(呆れて)気付くの遅……」

弦、恭隆、笑い合う。

窓の外は曇天。

○駐在所・外観（夜）

雨が降り出す。

急いで駆けだす通行人達。

○駐在所・中（夜）

雨音が響く。

机に座る今井。書類を見つめる。

机の上に置かれたジッパバッグ。中

に入れられたカプセルの殻。説明書。

今井、宙を睨み考える。

○弦の夢（25年前・松野家・廊下）

啜り泣きの声。

弦（37）、襖の隙間から中を覗く。

両親の寝室。

鏡台の前に座る優。

弦「……優」

優、驚いて振り向く。

口紅を塗った顔、涙を流し震えている。

○同（25年前・同・両親寝室）

弦、寝室に入る。優に近付き、抱きしめる。

弦「優、優、ごめんな、ごめんな……」

優、大声で泣き出す。

弦、顔を歪めて優を抱きしめる。

優「助けて、助けて！」

弦「優」

優「兄ちゃん……助けて！ 助けて！」

弦「（呻くように）……ごめん、ごめんなあ、

優、兄ちゃん、ごめんなあ」

優「兄ちゃんを！ 助けて！」

弦「え」

弦、顔を上げる。

鏡台から男の両手が伸びる。

弦、腕を掴まれ引っ張られる。

優「兄ちゃん！」

○現在・アパート・弦の部屋・寝室（朝）

小さく悲鳴を上げ目を覚ます弦。汗だく。

恭隆、弦の顔を覗く。

恭隆「大丈夫？　すごい魔されてたけど」

弦「あ……ああ、大丈夫」

弦、恭隆の手を借りて起きる。

恭隆、隣に座る。

弦、両手で顔を覆う。大きく息を吐く。

恭隆、無表情で見つめる。

○神社・境内（夜）

宵宮で賑わう境内。

夜店が立ち並び、行き交う人々。

○同・本殿横・川辺（夜）

灯籠がいくつも流れていく川。流れが速い。

ブロックの横に立つ恭隆。

弦の声「恭隆」

恭隆、振り向く。

弦、歩み寄る。

恭隆「伯父さんと伯母さんは」

弦「大丈夫。お前のこと心配してたぞ、顔見せに来て。お前は関係ないんだから」

恭隆「（躊躇うように笑って）うん」

弦、お好み焼きが入った袋を目の前に翳す。

弦「ほら、食おうぜ」

恭隆「うん」

弦、恭隆、その場に座る。

恭隆「検査結果、何ともなくてよかったね」

弦「それな、すっかり忘れてたよ」

弦、恭隆、笑い合う。

○駐在所・外観（夜）

中で勤務する警察官の姿。

○駐在所・中（夜）

書類を片付ける今井。

電話が鳴る。

今井、出る。そのまま話す。

今井「（驚いた声）……なんですって？」

○河川敷脇・通学路（夜）

人気がない。

歩く弦、恭隆。

弦、河川敷を見る。

恭隆「……降りる？」

弦「ああ……」

○河川敷（夜）

川は濁流。

風が吹いている。

手向けられた花の前にしゃがむ弦。両

手を合わせる。

弦の背を見つめる恭隆。

しばらく沈黙。

弦、合掌を解き立ち上がる。振り向く。

弦「行こうぜ」

恭隆「……」

恭隆、沈黙。じっと弦を見つめる。歩み寄り、キスを迫る。

弦、拒否する。

弦「おい、やめろよ。酔ってんのか？」

恭隆、苦笑する。

恭隆「まだ駄目かあ……でも、もう待つのもなあ」

弦「恭隆……？」

恭隆、弦を押し倒す。襲う。

弦、驚く。抵抗する。恭隆の腹を蹴る。

恭隆、後ろによろめく。

弦、息を切らし立ち上がる。

弦「おい、やめろってマジで」

弦、後退る。

恭隆、立ち上がる。微笑んで弦に近づく。

今井の声「松野さん！」

弦、恭隆、土手を見る。

○河川敷脇・通学路（夜）

今井、駆け寄る。土手を降りる。

今井「そいつから離れる！ そいつが、そいつが……犯人だ！」

○河川敷（夜）

弦、驚く。

恭隆、微笑む。

恭隆「（今井に向けて）いきなり何を言い出すかと思えば。何のこと？」

今井、警戒しながら恭隆に近寄る。

今井「お前が実家を退去する際に出したゴミからこれが出てきた」

今井、懐からジッパーバックを取り出す。古い口紅が入っている。

今井「鑑定の結果、カプセルトイに入っていたメッセーじに使われたものと、同一と判明した。そして筆跡は優のものじゃない。

……これを書いたのは、アンタだな」

弦、驚いて恭隆を見る。

恭隆、微笑んだまま。

恭隆「そうだよ、俺が書いた。……ちよつとした悪戯だよ」

今井「悪戯？」

恭隆「そう、ただの悪戯。深い意味はないよ」

今井「……ただの悪戯ならなんでそこに松野さんを誘導したんだ？」

恭隆、表情を消す。今井をじつと見つめる。

今井「近藤が自供した。お前から指示を受けたと。松野さんを神社へ誘導するように」

弦「近藤……」

○（回想）同

弦、近藤、話す。

近藤「あいつ、よく行ってたんだ。川辺の、ブロックの所」

弦「……追いかけてなかったのか」

近藤「（躊躇うように）……うん」

○現在・河川敷（夜）

弦、恭隆を見つめる。

今井「万が一松野さんが自分で見つけられなくても、お前が誘導すればいい。そうやって、お前は松野さんが事件のことを調べるように仕向けた」

恭隆「なんで俺がそんなことを？」

今井「：：お前は、あの事件の真相を知っていたんじゃないのか。ずっと前から」

弦「！」

今井「そして、その『一部』を、松野さんに気付かせようとした」

恭隆「：：たかが落書きだけで随分な騒ぎだね。ただの悪戯だって言ってるだろ？ それに近藤を使っただけ——」

今井「じゃあ、なんでこの口紅に松野優と松野敬大のDNAが付着してるんだ？」

今井、ジッパーバックを翳す。

今井「これは松野優の筆跡と一致しなかったが、間違いない事件当時使われていたもの

だ」

恭隆、無言。

今井「そして、事件の証拠として提出された
VHS。あれには松野敬大・三上壮介の指
紋『だけ』がなかった。まるで初めから存
在自体に関与していないかのように。そし
て映像自体の角度も低い。……子供が、
撮影したみたいに」

恭隆、俯く。

弦、今井、固唾を飲む。

恭隆、くつくつと笑いだす。顔を上げ、
微笑む。

恭隆「あくあ、ばれちゃった」

弦、愕然と恭隆を見つめる。

恭隆「そうだよ、俺が撮影したんだ。だって
そうなるように焚きつけたのが、俺だもの」

今井「焚きつけた……？」

恭隆「うん。そう」

弦「な、んで、そんなこと……」

恭隆、弦に向き直る。微笑む。

弦「欲しかったからだよ。ずっと。……弦のことが」

弦、目を見開く。

恭隆「俺はね、弦。いっつも独りぼっちだったんだ。父さんも、母さんも、昔から俺に興味なんてなかった。父さんの性癖がバレてからは友達だって離れていっちゃって。いっつも独りぼっち。結局父さんの地元に逃げるように引越してきたけど」

○（回想）25年前・松野家・玄関

玄関に立つ敬大、恭隆。

迎える広大、瞳。

瞳の背から顔を出す弦。はにかみながら、恭隆に手を差し出す。

恭隆、目を見開く。

恭隆M「そこでね、弦だけが俺に手を差し伸べてくれた」

恭隆、弦の手を取る。嬉しそうに微笑む。

優、弦の背後から顔を出す。恭隆を見つめる。優の手が弦のトレーナーを掴んでいる。

恭隆、冷たい目で優の手を見つめる。

恭隆 M 「でも、優はいつでも弦にべったり。弦と2人になりたいくてもいっつも邪魔だった」

○（回想）25年前・同・庭

庭で遊ぶ弦、優、恭隆。

縁側で談笑する広大、瞳、敬大。

恭隆、顔を上げる。敬大を見る。

弦と優を見つめる敬大。

恭隆 M 「父さんが、弦と優を狙ってることはすぐに気付いたんだ。でも弦は取られたくなかった。だから」

○現在・河川敷（夜）

恭隆、にんまりと笑う。今井が持つ口紅を指さす。

恭隆「優に言ったんだよ。それをやるから弦を守れって」

弦「……！」

恭隆「弦が狙われてる。このままだと酷い目に遭うかもしれない。だから弟のお前が助けるんだって。母さんが置いていった口紅。あれをつけてベットの所で待ってたらいいけるって」

弦、よろめいて座り込む。呆然とする。

恭隆、楽しそうに笑う。

恭隆「案の定、父さんは優に食いついた。面白かったよ。夢中になっちゃって気付きやしない。優に何度も言い聞かせたのは面倒だったけどね。これがバレたら次に狙われるのは弦になるけどいいのって。おかげで段々優は離れて行って、ようやく弦を独占できた」

今井、怒りの表情。体を震わせる。

今井「お前……！」

恭隆、冷めた目で今井を一瞥する。肩

を疎める。

恭隆「でも違った。優があっけなく死んじや
ったもんだから、その後も弦はずっと優の
ことばかり考えて……。こんなことにな
るならいっそ殺さない方がよかつたのか
な。馬鹿なことをしたよ」

今井「なんだと？」

恭隆、無言で微笑む。

弦「……お前、まさか」

○（回想）25年前・神社・本殿横・川辺（夕）

小雨。

木陰から見つめる恭隆。

携帯電話で話しながら去る敬大。

恭隆、優に近付く。

優、大きく咳き込み、目覚める。

恭隆、冷たい目で優を見下ろす。手を

伸ばす。優の首を絞める。

優、死亡。

恭隆、立ち上がり辺りを見渡す。ラン

ドセルを漁り、口紅を取り出す。ポケ
ットに入れる。その場から立ち去る。

○現在・河川敷（夜）

弦、涙を流したまま呆然とする。

弦「……なんで、なんで」

恭隆「言ってるじゃない。お前が欲しかった
からだって」

恭隆、弦に近付く。屈んで顔を覗き込
む。

恭隆「これで手に入ると思ったのに。それか
らも弦はずっと優の事ばかり。挙句の果
てには高校卒業して引越までしちゃって。
それでもお盆には帰ってくるし、その内忘
れてくれるだろうと思って俺はずっと待
ってたのに。今回は5年も帰ってこなくな
っちゃうし。だったらもういっそ諦めがつ
くように、弦が納得できる結末を見せてあ
げた方がいいかなって思ってる」

弦「……結末って」

恭隆、弦の頬を撫でる。涙を掬い、指を舐める。

恭隆「三上が犯人で父さんが共犯者。弦に気付かれて、二人とも自殺するって結末。だから父さんが隠してた封筒と一緒にVHSを入れて、三上の元へ行くように誘導した」

弦、呆然と恭隆を見つめる。

恭隆「俺達が三上を尋ねたら三上はきっと父さんに電話するだろうし、父さんは三上を殺しに行く。後は遺書を家に置いておいて2人とも自殺に見せかけて始末するはずだった」

今井「……でも松野さんの方が一足早く三上の元へ行つて、松野敬大と鉢合わせた」

恭隆、顔だけ今井に向ける。

恭隆「(苦笑して)あれは焦ったよ。父さんの遺書まで準備してたのに結局無駄になっちゃったし。まあ、俺の証言で見つかるように隠しておいたものだから問題なかった」

たけど」

今井「……あの火事も、お前が仕組んだのか？」

恭隆、吹き出す。

恭隆「(笑って)まさか。あれは俺も予想外だったよ。まあでも、変態共の末路としては妥当だったんじゃない？」

今井、舌打ちする。

今井「自分の事を棚上げして何言ってるやがる」

今井、一步踏み出す。

今井「松野さんから離れる、お前を逮捕する」

恭隆、二ツと笑う。弦の鳩尾を殴る。

弦、呻く。

今井、拳銃を抜く。恭隆に向ける。

恭隆、弦の背後に回る。両腕を背中に回して拘束する。

今井「松野さん！」

恭隆、弦を拘束したまま後退る。川に入る。

弦、振り払おうと藻掻く。

恭隆「おっと。今度は逃がさないよ」

弦、目を見開く。

○（回想）三上英会話教室・2階・教室（夜）

覆面を被った黒づくめの男（に扮した
恭隆。以下恭隆と表記）、弦の背中に乗
り上げる。

弦、顔だけ振り向く。

弦「……なんだよお前！」

恭隆、無言。弦の両手を背中に回し、
拘束しようとする。

弦、もがいて拘束を解く。恭隆を突き
飛ばす。逃げる。

○現在・河川敷（夜）

弦、恭隆を見上げる。

弦「もしかして、英会話教室で俺を襲ったの
は……」

恭隆「（楽しそうに）俺。ちよつとぐらいイイ
思いしてもいいんじゃないかって魔が差
しちゃって。早まっちゃった、ごめんね」

恭隆、弦の目元を舐める。

弦、暴れる。拘束は解けない。

今井、拳銃を構えたまま叫ぶ。

今井「松野さんを離せ！　もう逃げ場はない
だろう！」

恭隆、弦の肩越しに今井を見る。鼻で
嗤う。

恭隆「(呟くように)でもこんなことならやっ
ぱりイイ思いしとくんだったなあ。初恋は
大事だけど、大事にし過ぎてもよくないん
だねえ」

弦「何、言ってる……」

恭隆「何言ってるかわからない？　わかりた
くない？」

弦「恭隆……」

恭隆「俺はね、弦。弦のことが好きだったよ。
好きで好きで、大事で。ただ黙って涎を垂
らした犬みたいに待てができるくらい大
事だった。だって信じてたから。あの時俺
に手を差し伸べてくれたみたいに、いつか

また戻ってきてそれからはずっと俺と一緒にいてくれるって。また昔みたいに俺を傍に置いてくれるって信じてたから。だから、俺は、ずっと待ってたんだ。でも、結局弦は……俺を選ばないんだね」

弦、恭隆を見つめる。

恭隆、弦を拘束したまま後退る。

川の流れが速い。

恭隆、弦、よろめく。

今井「やめろ！ そっちは深みだ！ 流されるぞ！」

恭隆「(苦笑して)……今なら三上の気持ちもわかるなあ」

○(回想) 三上家・正面(夜)

三上、焦点の合わない目で敬大を抱きしめる。

三上「(ブツブツと呟く)俺のものだ、俺の、俺だけの。ようやく。俺だけのものになる。一緒に、死んで、死んだ後も、ずっと、ず

つと」

三上、敬大を抱きしめたまま火の中に
飛び込む。

○現在・河川敷（夜）

弦、震える。

恭隆、尚も後ずさる。

弦「（震える声で）恭隆、お前」

恭隆、ニツと笑う。弦に口付ける。

恭隆「顔を近づけたまま俺しかいない所で、
俺を選んで」

恭隆、弦を抱えたまま背から倒れる。

大きく上がる水飛沫。

今井「松野さん！」

弦、恭隆、濁流に飲まれる。

○川の中（夜）

流される弦、恭隆。

恭隆の腕で藻掻く弦。

恭隆、弦を抱きしめて離さない。

弦、力を無くしていく。

遠くの水面に浮かぶ月明かり。

○弦の夢（25年前・松野家・両親寝室）

鏡台の前に立つ優。泣いている。

優の前に立つ弦（37）

弦「……優」

弦、優を抱きしめる。

弦「優、ごめん、ごめん……」

優「兄ちゃんを、助けて」

弦「優……」

優「兄ちゃんを！ 助けて！」

弦、目を伏せて微笑む。緩く首を振る。

弦「いいよ、兄ちゃんは。助けなくていい」

優「（力無く）兄ちゃんを、助けて……」

弦「助けなくていい。もういいんだ、優」

弦、顔を上げ、優の頬を両手で包む。

弦「ありがとうなあ、優。兄ちゃんのこと、

守ってくれて、助けてくれて。こんな、こ

んなバカな兄貴のこと……」

弦、俯く。涙が溢れる。

弦「ずっと、守ってくれて、ありがとう……！」

優、顔を歪める。ポロポロ涙を零す。

弦に抱き着く。大声で泣き出す。

弦、優、泣きながら抱きしめ合う。

○現在・河川敷（夜）

増水し激しく流れる川。

雨が降る。

風と川の音が響く。

○河川敷・河口付近（朝）

照り付ける日差し。

腰まで伸びる雑草。風で波打つ。

茂みを掻き分けて搜索する今井、警察官達。

警察官1、茂みの中を見て声を上げる。

警察官1「いたぞ！　いた！」

今井「どこだ！」

警察官達、一斉に駆け寄る。

弦、体を丸め倒れている。意識はない。

警察官 1、弦の脈を測る。

警察官 1 「脈がある！ 生きてる！」

警察官 2、立ち上がって仲間へ叫ぶ

警察官 2 「救急車だ！ 急げ！」

今井、弦に駆け寄る。

今井 「（涙を浮かべ）松野さん……！」

今井、弦に手を伸ばし、固まる。

逡巡の後、弦の肩を掴み、仰向けにする。

今井、警察官達、絶句する。

両手で子供の頭蓋骨を大事そうに抱える弦。

今井 「（涙を零し）あ、あ、ああ……！」

弦の頬に涙の痕。

今井 「優……！」

今井、膝をつき、泣く。

○同・河口橋橋脚（朝）

橋脚に集まる警察官達。

腰までの水位。

警察官3、無線で話す。

警察官3「こちらでも発見しました。……いえ、死亡です」

警察官達、橋脚の付け根を覗く。

枝やゴミと共に橋脚に引っかかる恭隆の死体。

首を絞めるように絡まった子供の両腕の骨。

○松野家・外観

T・1年後

蝉の音が響く。快晴。

○同・仏間

仏壇の掃除をする弦。

弦「母さん、この灯笼、電気点かねえんだけど」

瞳「あら、本当？」

瞳、ぱたぱた近付く。弦の横に座り手

元を覗き込む。

瞳 「えい！」

瞳、灯籠を軽く小突く。電気が点く。

弦 「(愕然として) 嘘だろ……」

瞳 「何言ってるのよ、アンタの頭の悪さだつてこれで治してきたでしょ」

弦 「もつと嘘だろ……」

瞳 「優が1回で済むところがアンタは3回必要だったから大変だったのよ」

瞳、笑いながら位牌を拭き始める。

弦 「とんでもねえ母ちゃんだな。呪ってやれ

よ優」

瞳 「なんですって！」

瞳、弦、小突きあつて笑う。

広大の声 「おおーい、ただいま」

瞳 「あら、帰って来たわね」

瞳、立ち上がり仏間を出る。

弦、耳を澄ます。

瞳の声 「(ピシャッと) どんだけ買ってきてんのよあんたは！」

弦、吹き出して笑う。

広大の声「優が買えって言ったんだ！」

瞳の声「言うわけないでしょうが！ この馬

鹿親父！」

弦、微笑んで優の遺影を見る。

弦「とんでもねえ父ちゃんだな、優」

遺影の優は笑っている。

遺影の一段下に置かれた優の筆箱。

○河川敷

弦、花束を持って歩く。

弦の傘が落ちていた場所。ペットボトルや花が供えられている。

弦、屈んで花束を置く。川を眺める。

今井の声「松野さん！」

弦、振り向く。

近付いてくる今井。憤然としている。

今井「もぐ！ 川に近付かないでください

よ！ 心臓に悪い！」

弦、吹き出す。立ち上がって今井に向

き直る。

今井「笑い事じゃないですって！　もう俺の中でトラウマになってるんですからね。今度川に近付いたら逮捕しますから！」

弦「（笑いながら）横暴だぞお前」

今井「横暴でもなんでも！　市民の安全を守るのが俺の仕事なので！」

弦、笑う。

強い風が吹く。

今井、帽子を押さえる。

供えた花の花びらが飛ぶ。川面に落ちて浮かぶ。そのまま流れる。

穏やかな川。

弦、河口へ視線を向ける。

弦M「ごめんも、ありがとうも、馬鹿みたいに繰り返した。届くのか気休めなのかはわからなくても、何度でも何度でも、お前に届くように信じて」

弦、空を見上げる。

広がる青空。夏の雲。照り返す太陽。

弦 M 「楽になれるわけない。そんな日がくるわけないんだ。それでも生きなきやいけな
い。お前を守れなかった、助けられなかつた、助けられてばかりだった自分を、何年も、何十年も、一生責めて、責めて、責めて、続けて、そして、大事な弟がいたことを、最後まで覚え続けて。そうして、そうやって、生き終わったら」

弦、微笑んで呟く。

弦 「……お前に会いに行くよ。お前がい
ないから大変だったって言って」

今井、微笑んで目を伏せる。

弦、今井、その場を後にする。

穏やかな風で草が波打つ。

○川面

流れる花びら。

沈んで、浮かんで、進む。

○河川敷・河口橋橋脚

通り過ぎる花びら。橋脚の根元に吸い込まれる。
大きな気泡が一つ浮かぶ。弾ける。

○川の中

底から湧き上がる泡沫。
その中を沈む花びら。
底は暗い。
泡が湧き上がる音。
一面の黒。
泡の音が消える。
小さく一定に響く電子音。

○病院・外観

曇天。
小さく一定に響く電子音。

○同・廊下

無人。一定に響く電子音。

○病室

一定に響く電子音。

恭隆、窓辺に立ち外を見る。カーテンを閉める。

振り返り、穏やかに微笑む。

薄暗い室内。

ベットのの上、昏睡状態の弦。

呼吸器の隙間から微かに漏れる息遣い。

恭隆、弦に近づく。額に唇を近付ける。

恭隆「（口パク）これで、俺の」

了